

働き蜂が分泌し、女王蜂のえさとなるローヤルゼリー。乳白色のクリーム状で滋養強壯の効能があり、栄養剤として広く利用されている。一九六三年に国内で初めて、医薬品として製造を始めた。

自社製品のほか、医薬品と食品メーカーへの原料供給シェアは四割を占める。中村正社長は「養蜂業界の先駆者となり、信頼を勝ち取ろうとしてきた」と話す。医薬品製造は現在、関連会社の「日本養蜂」が取り組む。

日本の真ん中に位置する岐阜は、近代養蜂発祥の地。創業当初は秋田杉を扱う材木商だったが、一八八七年に秋田杉で作ったハチの巣箱の製造・販売をスタート。

ローヤルゼリーの採蜜は、働き蜂が新しい女王蜂育成のために、ふ化後三、四日以内の幼虫に口

秋田屋本店 (岐阜市)



28

ローヤルゼリーを与える習性を利用。プラスチック製の巣にローヤルゼリーを繰り返し分泌させる。



ローヤルゼリーを手に、「新たな医薬品作りにつなげたい」と話す中村正社長＝岐阜市加納富士町の秋田屋本店で

ローヤルゼリー薬に力

会社概要 本社は岐阜市加納富士町。1804(文化元年)創業。従業員280人。資本金500万円。売上高66億円(2011年8月期)

同社は、素早い採蜜をし、八年かけて成果を出可能にするため、ハチのした。現在はローヤルゼリーの土台となる六角形模様のシート「巣礎」を日入れて。中村社長は「未本で初めて作るなど、養蜂業の発達に寄与してきた。新証しようとしている。新

医薬品としての認可は、一九五五年から岐阜薬科大と共同研究を開始する。(佐久間博康)

たな医薬品や機能性食品作りにつなげたい」と語